



臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報は厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1
電話：03-3541-5151
担当者の所属・氏名： 聖路加国際病院 女性総合診療部 樋口尚史

【研究責任者】

聖路加国際病院 女性総合診療部 樋口尚史/百枝幹雄

婦人科良性疾患に対してロボット支援手術/腹腔鏡下手術を受けた方を対象とした術後疼痛に関する研究

1.研究の対象

- 1)2011年12月～2020年9月までにロボット支援子宮全摘術(非悪性疾患に対して)を受けられた方
- 2)2011年12月～2020年9月までにロボット支援子宮筋腫核出術を受けられた方
- 3)2011年12月～2020年9月までに腹腔鏡下子宮全摘術(非悪性疾患に対して)を受けられた方
- 4)2011年12月～2020年9月までに腹腔鏡下子宮筋腫核出術を受けられた方

2.研究の目的・方法

現在、婦人科良性疾患(子宮筋腫や子宮内膜症など)に対する手術方法には、従来の開腹手術の他に、腹腔鏡下手術やロボット支援手術といった低侵襲手術もあります。一般的に開腹手術と比べて、低侵襲手術では文字通り、患者さんの負担が少なく、術後の疼痛も少ないとされています。しかし、低侵襲手術において、腹腔鏡下手術とロボット支援手術を比べたときに、どちらの手術方法がより術後の疼痛を減らせるかはまだ分かっていません。今回、婦人科良性疾患に対する腹腔鏡下手術およびロボット支援手術の術後疼痛を調べることで、どちらがより患者さんにとって低侵襲かを明らかにすることを目的としております。

なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録(カルテ)に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2021年3月31日までの予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

今回の研究では主に以下の評価項目を検討します。

- ・手術翌日の朝の疼痛の程度
 - ・鎮痛薬の使用回数
 - ・術後病院滞在日数
- 等

上記評価項目を検討するための、主なデータ項目は以下となります。

- <情報>カルテ番号、イニシャル、生年月日、病歴、治療歴、妊娠出産歴等
<手術>手術時間、出血量、子宮重量、術後合併症、入院日数等